

国際関連情報 国際会議等

米国財務会計基準審議会（FASB） との第26回定期協議の概要

ASBJ 専門研究員 えんどう かずと
遠藤 和人

1. はじめに

2019年8月29日及び30日の2日間、企業会計基準委員会（ASBJ）は、米国財務会計基準審議会（FASB）との間で、第26回定期協議をノーワークで開催した。ASBJからは小賀坂委員長、川西副委員長、矢農常勤委員のほかスタッフが参加した。FASBからは、Russell G. Golden 議長のほか、セッションに応じて James L. Kroeker 副議長、Gary R. Buesser 理事、Susan M. Cospser 理事、Marsha L. Hunt 理事及び R. Harold Schroeder 理事が参加し、Shayne Kuhaneck 暫定テクニカル・ディレクター及び担当スタッフも一部セッションに参加した。

2. 全体のスケジュール

日時	議題
初日	近況報告
	のれん及び無形資産
	金融商品
	収益認識

	継続企業の前提
2日目 午前	開示
	暗号資産
	リース

3. 議事概要

(1) 近況報告

FASB 及び ASBJ の代表者の双方より近況報告がなされ、意見交換が行われた。

FASB の代表者からは、次の項目を中心に報告と議論がなされた。

- FASB の体制
- 国際会計基準審議会（IASB）との関係
- ワシントン DC の動き

ASBJ の代表者からは、次の項目を中心に報告と議論がなされた。

- 日本において使用されている会計基準
- 現在の日本基準の開発アジェンダ
- 修正国際開発基準（JMIS）の開発
- リサーチ活動
- 他の基準設定主体との協働

(2) のれん及び無形資産

FASB が 2019 年 7 月に公表したコメント募集「識別可能な無形資産及びのれんの事後の会

計処理」に関連して、ASBJの代表者より、主にのれんの事後の会計処理についてASBJスタッフの考察が示され、議論が行われた。

(3) 金融商品

現在の国際的な課題の1つである金利指標改革への会計上の対応について、ASBJの代表者よりASBJスタッフの考察が示され、議論が行われた。また、予想信用損失モデルの考え方についても議論が行われた。

(4) 収益認識

日本基準において現在検討されている収益認識基準に関する表示及び開示の要求事項に関連して、ASBJの代表者より、主に収益認識に関する開示の有用性に関する論点についてASBJスタッフの考察が示され、議論が行われた。

(5) 継続企業の前提

ASBJの代表者より、2019年3月の基準諮問会議における新規テーマに関して、「継続企業の前提に基づくことが適切ではない場合の判断規準の作成」が提言されたことに関連して、その考え方についての考察が示され、議論が行われた。

(6) 開示

ASBJの代表者より以下の論点について

ASBJスタッフの考察が示され、議論が行われた。

- 損益計算書の小計の有用性
- 2019年4月に開催されたFASBボード会議の中で議論された「財務業績報告—業績情報の分解表示」に対する考察

(7) 暗号資産

ASBJの代表者より、イニシャル・コイン・オファリング(ICO)のトークンを発行する企業の会計上の取扱いについて、ASBJスタッフの考察が示され、議論が行われた。

(8) リース

ASBJの代表者より、日本基準を国際的に整合性のあるものとする取組みの一環として、2019年3月にすべてのリースについて資産及び負債を認識するリースに関する会計基準の開発に着手することを決定したことに関連して、主にリース期間の考え方についてASBJスタッフの考察が示され、議論が行われた。

4. 次回の予定

次回の定期協議は、2020年3月に東京で開催することが予定されている。